



## Contents～今月号の掲載項目～

菊池人 末廣勝也さん	P03
水源・迫水・龍門小学校と 菊池北小学校の統合が決まりました	P04
第7回菊池市支部消防団操法大会	P05
TOPICS 菊池管内環境活動協議会がくまもと環境賞を受賞／菊池市総合体育館に記念樹を寄贈／第15回ほたるの里・旭志剣道大会／泗水東保育園の園児がジャガイモを収穫／大阪で菊池温泉と物産をPR／「劇団に"ゃあ" in 水俣市／第26回全九州小学生バレーボール大会出場決定／水源音楽祭2011～TO YOU (梅雨) LIVE～／べんりカー停留所用ベンチが寄贈されました／第11回九州青少年銃剣道大会個人戦女子で連覇／花房小学校と隈府小学校の5年生がアジア・アフリカ支援米を田植え	P06
国民年金情報 「わたしと年金」エッセイ募集中／国民年金の付加年金をご存知ですか？	P09
健康だより 特定健診は健康づくりの第1歩！ 歯ッピーキッズ／献血にご協力をお願いします 他	P10
文芸きくち 図書だより 新着・お薦め図書／耳より情報	P12
シリーズ菊池遺産 菊池遺産を募集しています 人権同和教育シリーズ 菊池夢美術館情報／わいふ一番館だより ふるさと緑の便り菊池グリーンツーリズム シリーズ鞠智城	P14
情報つつ お知らせ／市民の広場 社会生活基本調査を実施します／国民健康保険・後期高齢者医療被保険者の皆さんへ／介護予防ミニ講座／8月の「税」の納期限／菊池市教育委員会委員・公平委員会委員・固定資産評価審査委員会委員の選任／ゲートボール愛好者募集／戦争体験を聴く／NEW！☆リラックスヨガ☆／「菊池なんでんよか夜市」開催／農業委員会委員の選任／コイヘルペスウイルス病に注意してください／国際成人力調査 (PIAAC) を実施します／歯周疾患検診／外国人交流会は延期します／公共事業入札の公表／はじまります！今年の複合健診／林業労働災害防止キャンペーン／有効期限のある介護保険被保険者証をお持ちの人へ／熱中症に備えましょう！／「jobnavi・ジョブカフェイベント2011学生等就職面接会」開催／東日本大震災で被害を受けた中小企業の皆さんへ／大学通信教育合同入学説明会	P16

# kikuchi

豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち

広報きくち

# 8

2011 No.101

### 6月末の人の動き

(対前月比)  
 人口：51,333人 (▲30)  
 男性：24,652人 (▲23)  
 女性：26,681人 (▲7)  
 世帯：17,978世帯 (10)

### 今月の表紙

7月17日(日)、菊池市総合体育館前駐車場で第7回菊池市支部消防団操法大会が開催されました。表紙はホースを抱え全力疾走する第11分団2部の選手。市民の生命・身体・財産を守るため、日夜重ねた訓練の成果を披露しました。



「オヤカタ」。現地でそう呼ばれるのは、炭焼き職人の末廣勝也さん。今年の2月、炭焼きの技術を伝えるため、ネパール共和国ヒマラヤ山脈の麓の村に行きました。そこは電気、ガス、水道のない貧しい村で、水汲みと焚き物集めは子どもたちの仕事。そんな子どもたちを助けようと、全国でも数少ない炭焼き職人の末廣さんに依頼が来ました。「最初は迷いましたが、人のためになるなら引き受けました」と、当時を振り返ります。

炭焼きに必要な材料はすべて現地調達。ドラム缶などを利用して炭窯を作りました。「ネパールは法律で木を切ることができません。炭の材料集めは本当に大変でした」と末廣さん。さらに、「お風呂はありませんし、食事は毎日カレー。そして毎晩寝袋で眠りました。これを18日間ですから、ちよつとつらかったですね」と苦労を語ります。最初の滞在予定は16日間だったそうです。「炭の作り方を教えてほしい」という一人の青年のために、2日間滞在期間を延長しました。それでも末廣さんは「ネパールでは第1号の弟子なんです」と嬉しそうに話します。

「ちゃんと炭焼きができていないか確認するため、10月にもう一度ネパールに行く予定です」とアフターケアも万全。そんな末廣さんは、中国やミャンマーにも炭焼きの技術を伝えています。「世界中で炭焼きの技術を継承できたら本当に幸せです。体が動く限り伝え続けたいと思っています」。

## 「菊池人」希望者を募集します

新しいことに挑戦している人、伝統を受け継いでいる人など、菊池で頑張っている人を募集します。本市在住であれば、自薦・他薦は問いません。詳しくは市長公室まで問い合わせ先  
 市長公室広報広聴係  
 ☎0968 (25) 7200

## 菊池人 04 炭焼き職人 末廣勝也さん(72歳)

中学生のとき、亡き父の後を継いで炭焼きを始めました。当時は大分県の耶馬渓で産業用の木炭を作っていたそうです。経済成長に伴い電気やガスが普及すると、炭の需要がなくなり、やがて炭焼きから離れることに。しかし、環境問題や資源問題が取り沙汰されるようになると、消臭、調湿や調理などで効果を出す竹炭の良さが見直されるようになりました。そこで、父から受け継いだ技をもう一度復活させようと、当時の旭志村へ移住。昔ながらの赤土窯(黒炭)を始めました。

そして現在、この伝統技術を後世に残すべく、国内にとどまらず世界で活躍されています。